

私は耳が不自由です
戸田市議会議員 無所属

心の声が聴こえる街へ

た か の ぶ
佐藤 太信



↑
バリアフリー
実現!

HPはコチラ



●昭和55年5月18日生 ●2歳の頃に失聴 ●戸田東小学校卒 ●戸田東中学校卒 ●県立浦和商业高校
●中央大学法学部卒 ●大正大学院修了(臨床心理学) ●CAオーロニカレッジ留学
●東京電力入社(安全管理業務) ●児童福祉施設(社会福祉法人)
●都内ろう学校(スクールカウンセラー、乳幼児教育相談)

【所属】戸田市身体障害者福祉会会長、福祉で災害ネットワーク会長、戸田市聴力障害協会
【資格】臨床心理士、第二種電気工事士 【座右の銘】継続は力なり
【家族】妻(バイオリニスト)、猫5匹 趣味:陶芸、ランニング
【発行】佐藤太信 〒335-0034 埼玉県戸田市笹目5-4-15

ホームページ

<https://satotakanobu.com/>

メール

info@satotakanobu.com

ご挨拶

すっかり肌寒い季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

国政では、日本初の女性総理大臣として高市総理が誕生しました。経済・物価・金融情勢の安定を図る中で掲げられた「2%の物価安定目標」や、災害復興・防災対策を強化するための防災庁の設置など、今後の政策の展開に大きな期待が寄せられています。

戸田市議会では、9月定例会において令和6年度決算事業の審議を行いました。決算認定の採決結果は、賛成15人、反対9人(定数25人、うち1人欠員)でした。反対された議員の方々からは、一部事業の予算執行や事業効果に関する疑問点が指摘がありました。

市議会では、市の事業がより良い形で市民の皆さまに役立つよう、様々な観点から活発な議論が行われています。

今後も引き続き、市政の透明性を高め、市民の声を反映したまちづくりに努めてまいります。

●コラム●

8



「歩いて楽しいまち」「移動しやすいまちづくり」への挑戦

戸田市は、総面積18.19平方キロメートル、人口約14万2千人のまちです。1964年に開催された東京オリンピックではボート競技の会場となった「戸田漕艇場」があり、荒川や彩湖・道満グリーンパークなど、水と緑に恵まれた自然豊かな環境に囲まれています。1985年に埼京線が開通し、戸田公園駅、戸田駅、北戸田駅を中心に市街地の整備が進みました。開通をきっかけに、戸田市は急速に人口が増加しました。また、平均年齢は42歳、県内でも最も若いまちとして知られています。

移動しやすいまちづくりには、歩道の整備や公共交通の充実、緑の多い通りや休憩スペースなど、移動そのものが心地よい環境づくりが求められます。

安全で快適に歩ける道は、子どもから高齢者まで、すべての世代に優しいまちをつくります。市民の皆さんと共に、「歩くことが楽しい戸田」を実現していきます。

移動スーパー「とくし丸」出発式

11月より市内に(株)コモディイダによる移動スーパーが市内を走ります。近くにスーパーがなく、買い物に不便を感じている「買い物困難地域」もあり、議会で何度も提案しておりました。

この移動スーパーは、買い物に行きにくい高齢者などのご自宅まで伺うことができます。移動が難しい方々が少しでも安心して暮らせるよう、今後も地域の声を市政に届けてまいります。



議会活動

9月定例会の主なトピック

【戸田市立美笹中学校 建替基本計画が進行中】

戸田市立美笹中学校では、校舎の老朽化に伴い建替えが実施されることになりました。現在の校舎は建設から60年以上が経過しており、コンクリート部分の経年劣化が確認されています。

計画では、令和9年度に校舎の建替工事に着手し、約2年間をかけて新校舎を建設する予定です。美笹中学校は、市内6校の中で最も生徒数・学級数が少ない中学校で、近年では生徒数が300人を下回っています。



今回の建替えにあたっては、美笹中学校の生徒会の代表生徒も「建替基本計画検討委員会」の委員として参加し、整備方針や学校のあり方について意見を交わしました。生徒たちの声を反映した、新しい学びの場づくりが進められています。

【東部福祉センター】

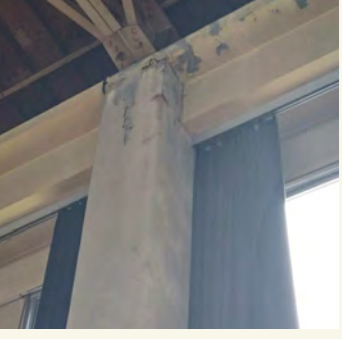
屋根の修繕とエアコン設置が実現！

東部福祉センター4階の体育室では、屋根の修繕およびエアコン設置工事が行われることとなりました。これに伴い、令和8年1月から6月末(予定)までの間、体育室の利用ができなくなります。

この体育室は、2019年の台風19号災害時に避難所として使用されましたが、その際に天井からの雨漏りが確認されました。また、夏季にはエアコンがなく、利用時に熱中症の危険性が指摘されていました。

こうした状況や利用者の皆さまから寄せられた声を受け、2024年の健康福祉常任委員会において問題点を上げました。施設の建て替えには時間を要することから、まずは安全で快適に利用できる環境を整えるため、今回の屋根修繕とエアコン設置工事の実施を決定しました。

市民の皆さまが安心して利用できる福祉施設となるよう、今後も引き続き環境整備の推進に努めてまいります。



議会活動

市民からの声を形に

【市役所通り(教育センター前)歩行環境の改善について】

市民の方から「道路上の石柱が通行の妨げになっている」とのご意見をいただきました。また、視覚障害のある当事者の方からも「歩行しづらい」との声が寄せられました。これらのご意見を受け、令和4年9月議会において改善を要望しました。

その結果、市の担当課において現地調査や予算措置などの調整を行っていただき、通行しやすい歩行環境へと整備していただくことができました。市民の声をもとに、より安全で快適なまちづくりが進められたことをうれしく思います。



【だれもが楽しめる公園】

10月下旬、荒川水循環センター上部公園にて、インクルーシブ遊具を体験できるイベントが開催されました。「インクルーシブ(inclusive)」とは、「包み込む」「誰も排除しない」という意味を持つ英語で、すべての人が共に暮らす共生社会の考え方を象徴する言葉です。

現在、戸田市内にはまだインクルーシブ公園やインクルーシブ遊具は設置されていません。これまで福祉団体や議会を通じて、市に対し設置の要望を重ねてきました。今回の体験会は、その実現に向けた第一歩となる大変意義のある取り組みであると考えます。

このイベントを通じて、「誰もが安心して楽しめる公園」とはどのようなものかを、多くの方々が考えるきっかけになったのではないかと思います。今後も、市民一人ひとりが安心して利用できるインクルーシブなまちづくりを推進してまいります。



議会活動 先進自治体の事例調査

議員の活動は、議会だけにとどまりません。日々が学びの連続であり、現場を見ずして政策を進めることはできません。先進自治体の取り組みや現場の声から学ぶことで、より実効性のある政策提案につなげていくことができますと考えています。今後も、地域の実情を踏まえ、市民の皆さまの生活に寄り添ったまちづくりを進めてまいります。

【全国都市問題会議(宇都宮市)に参加して】～持続可能なまちづくりを考える～

10/9・10/10

第86回全国都市問題会議が宇都宮市で開催され、戸田市のまちづくりを今後どのように進めていくべきかを考えながら大会に臨みました。
会場となった宇都宮市は、LRT(ライトライン)の開業から2周年を迎えたばかりの都市です。LRT導入にあたっては、何度も市民説明会を重ね、市民と丁寧に向き合いながら事業を進めてきたと伺いました。

人口減少社会が進行する中で、持続可能なまちづくりをどのように実現していくかは、すべての自治体にとって重要な課題です。戸田市においても、都市マスタープランや立地適正化計画に基づき、駅を中心とした利便性の向上や、にぎわい・交流の拠点となる駅周辺の再開発が進められています。

また、駅から離れた地域においても、駅へのアクセスが便利になるよう、公共交通の利用促進や移動環境の整備を進めていくことが必要です。今回の会議を通して、「誰もが快適に移動できるまち」「将来世代につなぐまち」づくりの重要性を改めて実感しました。



【全国の障がい当事者議員と意見交換を実施】～ぎふメディアコスモス・子ども若者総合支援センターを視察～

7/22・7/23

全国の障がい当事者議員や関係者の皆さんとともに、岐阜市の「ぎふメディアコスモス」と「子ども若者総合支援センター(エール岐阜)」を視察しました。ぎふメディアコスモスは、「知の拠点」としての役割を担う岐阜市立中央図書館を中心に、市民活動交流センター、多文化交流プラザ、展示ギャラリーなどが併設された複合文化施設です。市民が集い、学び、つながることができる空間として、多様な交流が生まれています。

また、エール岐阜は、日常生活の中でさまざまな悩みや困難を抱える子ども・若者に対し、教育・福祉・医療・心理などの専門家が連携し、ワンストップで総合的に相談・支援を行う拠点です。分野の垣根を越えた支援体制が整っており、地域全体で若者を支える仕組みが構築されています。これらの視察を通じて得た学びをもとに、障がい当事者議員や関係者とともに、地域における課題や今後の支援のあり方について意見交換を行いました。今回の経験を、今後の政策提言やまちづくりに活かしてまいります。



【議会活動報告】令和7年3月定例会 一般質問

件名.1 高齢者や障害者、妊産婦、乳幼児などの避難支援について

避難行動要支援者避難支援制度については、市内の方から、申請を検討していたが、担当課との話合いの結果、公助の取組に限界があることから受付を断念したとの声を伺っている。この制度における個別避難計画は、内閣府によると高齢者や障害者など自ら避難することが困難であり、避難の確保を図るため特に支援を要する方が対象となっております。

福祉避難所は、高齢者や障害者、妊産婦、乳幼児など、避難所生活で何らかの特別な配慮を必要とするよう配慮者とその家族を受け入れ対象としています。市内の福祉避難所は、「福祉保健センター」「笹目コミュニティーセンター」「戸田かけはし高等特別支援学校」の3箇所あります。能登半島地震では、介護が必要な高齢者や障害者ら「要支援者」を受け入れる福祉避難所の開設がなかなか進まなかったと伺っている。水害や地震災害の人的被害は、これまで高齢者や障害を持つ人たちに集中しており、災害関連死をなくす取組が必要ではないでしょうか。

Q 「避難行動要支援者避難支援制度」の現状について伺う。

A 避難行動要支援者避難支援制度の現状につきましては、年齢要件のみに該当する75歳以上の方10,634人などを含めた、令和6年4月1日現在の対象者数は15,010人に対し、登録者数は309人。

Q 対象者への働きかけは。

A 避難行動要支援者避難支援制度の対象者だけでなく、広く市民に知っていただくために、ホームページでの周知や関係課の窓口での配架を行っている。そのほか、制度のさらなる周知を目的に、リーフレットの掲載内容の見直しを行い、令和5年3月から4月にかけて全世帯配布を実施したところである。

Q 福祉専門職による個別避難支援プランの作成を。

A 専門職に参画いただくことで、より要支援者のニーズに寄り沿った個別避難計画が作成できると考える。関係部局と連携しながらどのような形で福祉専門職に関わっていただけるのか調査研究を重ね、市民の方が利用しやすい方法を検討する。

Q 福祉避難所運営における課題は

A 福祉避難所の運営にあたり、様々な事情をお持ちの方に特化した備蓄品などは十分に揃えることが難しいことや、非常用電源の確保についても、一般的に必要なとされる72時間に対し現状では十分とは言えない状況であること、更には、地震発生時など避難者が集中した場合の受け入れ可能人数に限界があることなどが主な課題であると認識している。

Q 協定を活用した福祉避難所の増設を

A 令和6年12月1日に「社会福祉法人ばる」と協定を締結し、災害時に要配慮者を受け入れていただく施設を1か所増設したところである。今後も引き続き、受け入れ施設の増設に努めていく。

Q 福祉避難所があることを知らないという方が多い。福祉避難所は、本当に支援が必要な方(要支援対象者約1万5千人)に対する周知が必要ではないか。現段階では、大きな災害が発生した際には、運営する側、避難する側を含めて混乱を生じかねません。こうした備えについてはどのように考えているか。

A 今後、関係部局と協力して、多くの方に福祉避難所の存在を知っていただけるような周知方法等を検討していく。

【佐藤の視点】

戸田市は、数年経てば、職員は異動により担当が変わります。避難行動要支援者支援プラン、福祉避難所運営ガイドライン作成などによって、誰が担当してもわかりやすく、また職員が異動した際の引継ぎがスムーズになれば、市全体として業務の効率化、職員の負担軽減につながるのではないのでしょうか。制度の整備を進めていただけることを要望しました。



【佐藤の視点】

埼玉県の災害時要配慮者避難支援マニュアルには、避難行動要支援者を把握し、個別避難計画を作成することは、市町村の努力義務とされている。戸田市は、担当課職員等が申請した方に対してヒアリングを行っている。個別避難計画の作成にあたっては、令和3年5月から5年程度で作成に取り組むとともに、計画作成の際は、本人の状況等を把握している福祉専門職の参画が極めて重要と記載されており、実情に応じた個別避難計画が作成できること、担当課職員等の負担軽減も図れるため、福祉専門職との連携を要望しました。

最後までお読みいただきありがとうございます。市政に関する、皆様のご意見・ご要望をお聞かせください。

メール info@satotakanobu.com

TEL 050-3605-5961(電話リレーサービス) FAX 048-494-6439



討議資料